

食にかかわる専門家を支える

NPO法人 食生態学実践フォーラム



〒169-0075

東京都新宿区高田馬場 4-16-10 コーポ小野 202

TEL & FAX : 03-5925-3780

2016.7.15 Vol.42

E-mail : forum0314@angel.ocn.ne.jp

http://www.shokuseitaigaku.com/

■第13回総会報告

日本女子大学新泉山館(東京都文京区)

2016.6.5

6月5日13時より、日本女子大学新泉山館において、第13回総会が44名の参加者(委任状参加を含む)を得て開催されました。開催にあたり、足立理事長より「食をめぐる大きなうねりの時期を迎えているが、フォーラムは、誰のために、どの方向に向かって、積み上げてきたことを発信していくのかをしっかりと定め発信していかなければいけない」と、挨拶がありました。



監事の山本妙子氏の監査報告。

議案は、2015年度事業報告・決算報告の他、2016年度事業計画・予算についての審議と承認がされ、今後の活動も頑張り合いたいと確認できた総会となりました。

高橋千恵子(フォーラム理事)

■総会研修会

“貧困の連鎖”が深刻化するほど問われる、それぞれの食事の自立、とりわけ『食事づくり力』とは？ その形成とは？

日本女子大学新泉山館(東京都文京区)

2016.6.5

6月5日、食生態学実践フォーラム総会研修会が、日本女子大学新泉山館

で開催されました。研修会の主題は「“貧困の連鎖”が深刻化するほど問われる、それぞれの食事の自立、とりわけ『食事づくり力』とは？ その形成とは？」。フォーラム会員のみならず、「子どもの学習支援」「子ども食堂」等をすでに実施する中、衛生面

や栄養面の緊急課題への対応法を考えている事業者、そうした場所に食材を届ける立場から抑えるべきポイントを確認したいと模索している食品業者、これから子どもの貧困解決の社会貢献をしようとしている企業担当者、貧困や食に関連する市町村や国の行政担当者など、多様な関係者120名以上が参加しました。

基調講演は、新潟県立大学教授・村山伸子氏。「子ども・家族・地域の“貧困”と食」というテーマで講演いただきました。平成24～26年度に行われた厚生労働科学研究事業「日本人の食生活の内容を規定する社会経済的要因に関する実証的研究」の研究成果を交えて、子ども・家族・地域の“貧困と食”についてお話しいただきました。

まず、子どもの貧困について、親の就労状況により、小学生・中学生に対する就学援助が増加してきており、欧米、韓国での世帯の経済状態と子ども(6～12歳)の食事・栄養状態との関連の先行研究でも、貧困による子どもの食事の質の低下が示されました。

子どもの貧困と食生活の実態では、「世帯の経済状態によって、子どもの食生活に違いはあるか?」「生活困窮世帯の子どもの食生活の実態は?」という問いに、東日本4県6市町村の小学校19校の5年生全数1,447人の児童、保護者への質問紙調査、児童による食事記録、学校での児童の身長と体重の測定結果を用いて、子どもの貧困の現状を示していただ



左から村山伸子氏、宮野由紀氏、平本福子氏。

きました。改めて、子どもの貧困対策のための実態把握、指標の開発の必要性を感じるデータであったと思います。子どもの貧困対策と食生活では、国の子どもの貧困対策法と基本計画、自治体の対策計画、地域の中での取り組みについて概観した後、フードバンクや子ども食堂の活動を事例に、子どもたちの食の自立、「食事づくり力」の形成に果たす役割についてお話しいただきました。

基調講演の村山氏を交えて、当フォーラム理事長の足立己幸を座長に、「“貧困の連鎖”が深刻化するほど問われる、それぞれの食事の自立、とりわけ『食事づくり力』とは？ その形成とは?」についてシンポジウムを行いました。

まず、「“食事をつくらない、つくれない”の根元にあること～保健センターの現場から」という発題で、埼玉県狭山市保健センター主幹・管理栄養士・宮野由紀氏に、保健センターでの親子相談の事例を基に、発言していただきました。

続いて、「生活者としての自立につながる『食事づくり力』とは～子ども主体の地域活動から」という発題で、子ども



座席を増設するほどたくさんの参加者が集まった。

たちが主体的に活動している「べんとうず」の活動を中心に、宮城学院女子大学・平本福子氏に発言していただきました。

シンポジウムが大変短い時間で残念でしたが、「地域ぐるみで子どもを大事にする垣根のない居場所として、ごはんを食べたり、宿題をしたり、本を読んだり、遊んだり等、子どもが安心して誰かとともに過ごすことができる場所を、地域の人々の思いと工夫でつくる」「“ごはん”を通じてみんながつながり、地域がつながり、寂しさやしんどさを抱える子どもを地域で見守り、育てていく場を広げる」ことを早急に行うことの重要性を感じる研修会であったと思います。私たちは「食の専門家を支える」NPOとして、こうした重要な課題を受け止めて協働する活動の緊急性を共有する場になりました。高増雅子（フォーラム理事・日本女子大学）

■食育月間の取り組み

「長岡ぴったり3・1・2弁当」販売！

長岡市では、市民一人ひとりの健全な食生活を推進し、生活習慣病予防につなげるため、「3・1・2弁当箱法」を基にした、「長岡ぴったり3・1・2弁当箱法」の普及推進に取り組んでいます。

このたび、6月の食育月間の取り組みとして、市内スーパーマーケット5社と連携し、各社オリジナルの「長岡ぴったり3・1・2弁当」を販売しました。長岡市はこの取り組みを市の広報紙掲載等で周知し、「3・1・2弁当箱法」のチラシやポスターなどを作成。スーパーマーケットへ設置して、「長岡ぴったり3・1・2弁当箱法」の普及啓発を行いました。

スーパーマーケットからは、「お客様の健康な食生活のきっかけづくりにしてもらいたい」「お客様から『今年も長岡



販売した「長岡ぴったり3・1・2弁当」の一例。



「長岡ぴったり3・1・2弁当」スーパー売り場の一例。

ぴったり3・1・2弁当を楽しみにしている』という声をいただいている」等の意見をいただきました。

今年で6年目になったこの取り組みですが、スーパーマーケットの健康に関する食環境づくりへの意識が向上していること、市民への「3・1・2弁当箱法」の認知度が高まっていることを実感しています。初年度は2社でしたが、年々参加するスーパーマーケットが増え、今年度は最多数の5社になるなど、取り組みの広がりを感じております。

金子紗也加（長岡市役所福祉保健部健康課）

■フォーラムホームページの バナーができあがりました！

フォーラムホームページのバナー（banner）ができあがりました！



バナーとは、ウェブページ上で他のウェブサイトを紹介する役割をもつ画像のことです。フォーラムの告知・宣伝用として、他のウェブサイトからのリンク用に利用されることを期待しています。

NPO法人食生態学実践フォーラムをリンク先として設定してくださる場合は、お手数ですがリンク元のホームページ URL 及び連絡先を、事務局（forum0314@angel.ocn.ne.jp）までお知らせください。

また、リンク先設定に際して、リンク元のホームページに当フォーラムの内容の全部、または一部が組み込まれるよう

な設定、不正な目的のために利用する設定や、当フォーラムまたは第三者に損害を加える目的により当フォーラムホームページを利用する設定等はお断りいたします。

尚、予告なしに変更または削除する場合がありますので、あらかじめご了承ください。

越智直実（フォーラム理事）

●会費納入のお願い

2016年度年会費をまだご納入いただいていない方は、下記口座まで、お振込をお願いいたします。[振込先]三菱東京UFJ銀行・高田馬場支店（普）1517770 または、ゆうちょ銀行〇一九（ゼロイチキュウ）店（019）（当座）0702760

名義はどちらも、「特定非営利活動法人食生態学実践フォーラム 理事長足立己幸」です。

●事務局からのお知らせ

今年度の開室日も、原則として火曜日と金曜日となっています。開室時間は10:00～17:00です。不在の場合は、留守番電話にメッセージをお残しいたどうか、ホームページの「お問い合わせ」からメールでご連絡ください。

●「3・1・2弁当箱法」弁当箱の販売について

当フォーラムホームページの教材・刊行物のご案内にて、「3・1・2弁当箱法」弁当箱の販売を行っております。会員さま価格は、500ml 1350円、600ml 1350円、700ml 1450円、900ml 1800円となっております。5000円以上お買い上げの場合は、送料無料とさせていただきます。どうぞご利用ください。

からだ・心・くらし・環境に健康な1食

「3・1・2弁当箱法」



©NPO法人 食生態学実践フォーラム